

135 やすはらおおつか こふん
安原大塚古墳



指 定 市 史 跡 昭和45年10月1日
所在地 安 原
所有者 英 多 神 社



この古墳は、6世紀末から7世紀中ごろに構築されたものと考えられ、市内としては三河田大塚古墳に次いで大きな、横穴式石室をもつ円墳である。

後世にいたり、周囲に人手が加えられたため、原形は損傷されて羨道の有無は確認できないが、石室はほぼ原形をとどめている。

石の積み方は、両側壁にゆるやかな持ち送り技法がみられ、殊に玄室には、西壁第4天井石の真下、基底部奥壁から1.8m離れたところに、幅1.19m、奥行69cm、高さ63cmの小出張り室（箱形凹穴）のある特異な構造をもっている。

遺物発見の記録はないが、羨道部と見られる地点から、須恵器片や土師器片が採取されている。

- 参考資料 1. 「調査報告書」 岩崎長思
2. 「北佐久郡の考古学的調査」 昭和9年